

新聞OB 「九条の会」

2025年8月26日 第155号 【部内資料】

〒113-0033 東京都文京区本郷2丁目17番17号 井門本郷ビル6F
新聞労連気付 TEL 03(5842)2201 FAX 03(5842)2250
(郵便振替口座) 新聞OB「九条の会」00130-0-334661

日本国憲法

第二章 戦争の放棄

第九条① 日本国民は、正義と秩序を基調とする国際平和を誠実に希求し、国権の発動たる戦争と、武力による威嚇又は武力の行使は、国際紛争を解決する手段としては、永久にこれを放棄する。

② 前項の目的を達するため、陸海空軍その他の戦力は、これを保持しない。国の交戦権は、これを認めない。



参院選後の軍拡、改憲の新たな局面に立ち向かう市民の行動を！

9条の会・会報、8月9日付、第469号から「訴え」を採録しました。

さる7月20日に行われた参議院議員選挙において、石破自民党は、衆院選、都議会議員選挙に続いて大敗し、自公勢力は参議院においても過半数割れに追い込まれました。

しかし、対する野党の側では、立憲野党が現状維持・後退した反面、軍拡、改憲を志向する国民民主党、参政党などが躍進し、日本維新の会、日本保守党などと合わせ、軍拡、改憲勢力は、自公議席の大幅減にもかかわらず、改憲発議に必要な3分の2を上回る議席を確保しました。

参政党など、トランプ政権、ドイツ、フランスなどヨーロッパ・ポピュリスト政党の跳梁跋扈と軌を一にした極右政党の台頭も見逃せません。

自民大敗を受け、メディアや党内から石破おろしの声が強まり石破政権は存続するか新政権に代わるか予想がつきませんが、いずれにしても、自公政権は、今年の通常国会以上の苦しい運営を迫られ、安倍、岸田時代のような乱暴な国会運営は出来なくなります。

しかし、自公政権は、トランプ政権による高関税の脅しと絡めた軍事費増額、兵器購入の圧力、台湾有事に向けた日米軍事一体化体制づくり圧力の増大、参院選での参政党などの台頭を味方にして、軍拡、戦争準備体制づくりを加速させることは間違いありません。

自公過半数割れの結果、衆院に続き参院の憲法審査会長にも立憲議員が就任する反面、新たに参政党が審査会に入るなど、明文改憲も予断を許しません。まず、自公政権による憲法破壊、戦争準備体制づくりに対する市民の行動が求められています。

参院選の直前になって、市民連合の要請を受けて、立憲野党間の話し合いが行われ、17の一人区で候補者が一本化し、12の選挙区で立憲公認、推薦候補が勝利しました。

この秋以降の軍拡、憲法破壊、参政党による排外主義、差別キャンペーンに対しては、この市民と野党の共闘による共同の行動と発信の強化が求められています。

残暑お見舞い申し上げます。
山口文昭
事務局長

平和憲法を生かし改憲阻止へ頑張りましょう。
今年には異常気象による豪雨、猛暑が建てつづきに発生しています。元気で乗り越えていきましょう。

戦後80年、戦争で亡くなられた多くの犠牲者を心から悼みまします。体験者の多くが亡くなり国民の9割が戦後生まれとなり改めて歴史の継承は重要と言えます。

被爆者たちの運動により「核なき世界は大きな潮流」となり核廃絶へのトビラを開いてきました。核兵器禁止条約が21年発効され現在122カ国が批准をしています。随一の被爆国である日本政府による批准は責務と言えます。



ひと言 大募集！

この8月は、アジア・太平洋戦争の終結から80年。新聞各紙も「戦後80年シリーズ」をいろいろと意欲的に企画しています。

自公政権は、アメリカ言いなり大軍拡に突き進もうとしています。それを補完する勢力や極右・排外主義の潮流も台頭してきました。

ここでお願いです。
戦後の苦労話や近況報告などを同封のハガキでお寄せ下さい。9月20日ごろまでに届くようにお願いします。(写真は朝日、毎日、日経、読売新聞から)

差別、分断、暴論で騙す 参政党を考える

河合良一
(元日経)

はじめに

先の参院選での参政党は「日本人ファースト」を前面に掲げ、議席を伸ばした。だが、各候補者の訴えには、差別や分断を持ち込み、対立を促すような、極論が目立っていた。しかも稚拙で裏付けのない虚偽公約、暴言の数々であった。そこで、それらの問題点を参考までに振り返ってみる。

「日本人ファースト」

■神谷代表は7月14日、高知市内で記者団から「日本人ファースト」とは差別や排外主義をおおるものではないかと問われ「選挙のキャッチコピーだから、選挙の間だけで、終わったらそんなことで差別を助長することはしない」と。論理もなく、軽々しい応えに呆れる。

また同代表は松山市での街頭で、公務員に向けて「極端な思想の人たちは辞めてもらわないといけない」とこ

「治安維持法」を肯定

■鹿児島市内での神谷代表街頭演説。治安維持法を「悪法、悪法というが、それは共産主義者にとって悪法でしょうね。共産主義者を取り締まるものですから」と。ここでも暴論を主張する。

この神谷発言に対し「治安維持法犠牲者国家賠償」を洗い出すのがスパイ防止法だ」「極左の考えを持った人たちが浸透工作で社会の中枢にがっつり入っている」と。異なる考えの人々を排除の思想。廃案となった「スパイ法案」を持ち出すなど、言語道断。

公務員は、国家公務員法や地方公務員法などにより、政治活動には一定の制限はあるが、思想信条の自由は憲法19条で完全に保障され、思想調査は憲法13条に基づくプライバシー権に触れる恐れもある。

要求同盟」は、撤回を求めた抗議文を発表した。戦後、日本国憲法が制定されたとして「そのような歴史的経緯を無視し、治安維持法の弾圧的性格を軽視し」「民主主義と人権尊重という現代日本の根幹を否定する極めて危険な暴論であり、到底看過することはできません」と批判した。

天皇主権の憲法草案

■神谷代表は参院選開票中の20日、TBSラジオ番組に出演。フォトジャーナリストの安田菜津紀さんが質問。参政党憲法構想案には「国民の要件」として「日本を大切にすることを要する必要性」とあるが、それはどの様に量るんでしょか」と尋ねる。

重大発言「核武装」は検討すべき

■東京選挙区に立候補した参政党さや候補は「日テレNEWS」で、核保有や日米同盟について問われ、「核武装が最も安全であり、最も安全を強化する策の一つ」と、聞き捨てならない重大発言。自身の発言に何一つ説明もできない候補者。軽薄さを曝け出した。

また、神谷代表は選挙中、「核武装は検討すべきだ。議論は避けてはいけな」と主張する。唯一の被爆国日本は、核兵器を「持たず、作らず、持ち込ませず」の非核三原則を国是としている。参院議員3年の神谷代表、その資格と責任が厳しく問われる。

ノーベル平和賞授賞の日本被団協代表委員の田中照巳さん(93)は「日本の政治家が核を使うことを前提として議論するのは恥ずかしい」。同じく代表委員の田中重光さん(84)も「発言した人は被爆者の体験を聞いたことがあるのか。日本が核保有国になるなど言語道断。被爆者を侮辱している」。また、原水爆禁止日本協議会の安井正和事務局長(70)も「被爆者を前にして同じことを言えるか。原爆が使われると何が起きるか、それは被爆者が命をかけて訴えて来たことだ」と、3氏は憤る。



デマ投稿で共産党を攻撃

■神奈川選挙区から立候補した初鹿野裕樹氏は元警視庁警察官。「沢山の仲間が共産党員により殺害され、殺害方法も残酷であり、今だに恐怖心が拭えませんが」とX(旧ツイッター)に7月7日投稿した。

共産党神奈川県委員会、初鹿野氏宛に抗議文を届けるが、回答がない。ため神奈川県警に告訴し受理された。「選挙中の虚偽投稿により共産党の名誉が著しくおとしめられる事態になっている。7月15日までに110万件が表示され、選挙の公正を侵害し、民主主義を蹂躪することになる」と訴えた。

外国人差別、知事らが批判

秋田県鈴木健太知事「国籍や人種で人を決めつけるのは差別だ。」
島根県丸山達也知事「外国人を排除すれば、社会的弱者の排除に繋がります。社会が良くなるのは主眼は大変憂慮する。」
長野県阿部守一知事「地球規模の課題がある中、狭い地域で対立構造をつくることは望ましいことではない。」
埼玉県大野元裕知事「国籍、人種、門地の問題ではない。治安を維持することが必要だ。」
熊本県木村敬知事「外国人が増えたから犯罪が増えたというのはデマ」

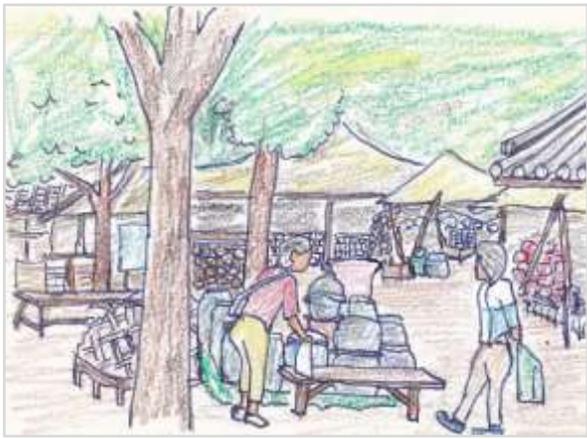
夕上ない。外国人材なくして熊本の経済発展は見込めない。
滋賀県三日月大造知事「何とかファーストは好きでない。私、あなた、みんなにとつて良い社会を目指したい。」
千葉県熊谷俊人知事「社会において、外国人の方が欠くことのできない状況を受け止めて頂きたい。」
岐阜県江崎禎英知事「日本人ファーストというより、外国の方も同じように扱える社会にしていくことが大事だ。」
(以下3面につづく)

老来(老)朗(朗)話

戸塚 章介

歴史と伝統を重んじる韓国 テーマパーク「民俗村」は学んで遊べた

韓国の歴史と伝統が詰まっている民俗村



国風タコの刺身に

は驚いた。イイダ

コの足がどんぶりに

いっぱい出てくる

のだが、それが

まだ活きている。

くねくねとどんぶ

りの中で身をよじ

っているのだ。そ

れを口の中へ放り

込むと粘膜に吸盤

が吸い付くんだよ

な。一緒に行った

女性たちが「キャ

ー」と言っつて絶句した。

それからいろいろなメン

バーと何度も韓国へ行っ

た。そうだ、2009年に

は新聞OB九条の会の年

間特別企画として「日本

植民地時代のたたかいに

学ぶ」という他の団体で

はあまり採用しないタイ

トルで、男ばかり10人のツ

アーを組んだ。あの時は、

ソウル郊外の「ナムムの家」

を訪れ、戦争中日本軍に徴

用された元従軍慰安婦・ハ

ルモニたちに面会した。日

本の歴史的犯罪に想いを

馳せ。心が重くなった。

そうだ、新聞九条の時も

行ったが、その後も何回か

足を運んだテーマパーク

「韓国民俗村」の話を書く

予定だったんだ。すっかり

脇道へそれちゃった。民俗

村のある水原(スウォン)

へは、ソウルの中心部から

地下鉄でもバスでも1時

間程度。広い敷地に豊富で

貴重な民俗資料、屋台、曲

芸の広場など盛りだくさ

んだ。その中に古来の陶器

を作成しているコーナー

があつて、民族衣装を着た

若い女性が実演していた。

その眼が澄んでいてとて

も素敵だった。

あの透き通った眼を表

現したくて描いてみたの

だが、私の力不足はどうし

ようもない。

ま、いろいろ

あつたが、韓

国の人々の歴

史と伝統を重

んじる気持ち

に打たれた学

びの場だった

ことは間違い

ない。

陶器づくりの若い女性

陶器づくりの若い女性

陶器づくりの若い女性

陶器づくりの若い女性

陶器づくりの若い女性

陶器づくりの若い女性

陶器づくりの若い女性

陶器づくりの若い女性

(2面からのつづき)

会見場で記者の退席強行

参政党は定例記者会見(7月22日)に出席していた神奈川新聞の石橋学記者に対し、事前登録がされてないため参加はできないと、即刻の退席を求めた。

だが、各社にあってた案内文には登録の記載はなく、明らかに「うそ」であり石橋記者は退出を拒否した。ところが係員は「主催権限があり、あなたのせいで会見が開けない。責任をとれるか、警備を呼んだ」と恫喝してきた。

石橋記者は選挙期間中、神奈川選挙区で参政党の初鹿野候補の言動と横暴ぶりを批判した記事を精力的に執筆してきた。会見には初鹿野氏も出席しており、会見の場での批判を恐れたのであ

ろう。

神奈川新聞社は翌23日、公党が正当の理由もなく記者取材を拒むことは「国民・市民の知る権利をないがしろにする行為で、到底容認できない」と抗議文を出した。

新聞労連は定期大会で「報道の萎縮を狙った圧

神谷氏の経歴、動向は：

神谷宗幣参政党代表は、1977年10月生まれ。関大法科大学院卒。07年から大阪吹田市議会2期、12年自民党から衆院選に臨むも落選。20年4月に参政党を結成。22年参院選比例区で当選。

神谷氏は石川県加賀市に在住。昨年1月能登半島大地震。市民が被害復旧に追われる中、神谷氏は家族を連れ、1月中旬海外旅行へ。救援の先頭に立つべき国会議員が遊行

などもつてのほか。辞職に値し、その人間性を疑う。また、元公設女性秘書が神谷氏のセクハラで退職、自殺した。元同僚の女性が訴訟中。8月5日、ドイツで排外主義的な極右野党「ドイツのための選択肢(AfD)」のクルハラ党首と国会内で会談。

愛読書は独裁者ヒトラー「わが闘争」。英国の経済紙「フィナンシャル・タイムズ」は参政党を「極右政党」と紹介している。

ひと言

参議院選挙から

狩野 博美

た。

選挙戦で繰り広げられた事実と異なる外国人攻撃、憲法破壊の排外主義などに関心が集まり、いくつもの重要な課題が弱くなりまし。極右的潮流の政党が伸長したこと

で、今後の政治の動向に注視していく必要があります。

与党を過半数割れに追い込んだのは、大きな変化だと思えます。

しかし、自公与党の過半数に足りない議席はわずか3議席に過ぎません。また、改憲勢力は、なお、3分の2超のままです。自民党の大敗で多党化が進み、参議院は10政党ぐらになり、国会の運営は混乱するかもしれません。(以下4面に)

